

2011年4月4日

ロシア関連メモ 064

国際公共政策研究センター  
主任研究員 神野 雅人

### アレクセイ・チェスナコフ氏週報(3\_30\_2011)

2010年9月のモスクワ出張時に面談し、ロシアの改革動向について詳細な説明を頂いたアレクセイ・チェスナコフ (Алексей Чеснаков) 氏は、同氏が所長を務める政治動向センターのホームページに毎週「середине недели (週央にて)」と題するコラムを執筆している。これはロシアの政治動向について簡潔にまとめたうえで論評を加えたものである。この種のロシアのメディアは数少ないため今後適宜参照することとする。

#### 先進的技術者の育成

今日 (3/30) の国家近代化委員会では、イノベーション的発展の重要な要素である技術者育成について議論された。ロシアがこの領域における専門家養成方法を根本的に見直さなくてはならないことは明らかである。今の技術者は生産現場の「旧式手法」のため限定的な役割しか果たせていないが、新しいタイプの専門家が増えることにより、彼らが「創造的技術者」層として周囲に良い影響を与えるようになることが必要である。

現代においてイノベーションを推進できるのは、いわゆる“イノベーター”と呼ばれる「超近代的」な人々であり、彼らは最先端の技術の活用方法を理解し、いわば未来の環境において思考し活動する人々である。そのような先進的技術者を生み出すことがロシア近代化プロジェクトにとって重要な政治的課題の1つである。

※解説：3月30日の大統領直轄の「ロシア経済近代化及び技術的発展委員会」において、メドベージェフ大統領は投資環境改善へ向けた10項目の包括的提案とともに、技術者養成のための措置についての提案を行った。本件はそのことについてコメントしたもの。

#### 右派

政党「右派活動」(Правого дела) の党首候補選定と議論の経過を観察するのは非常に興味深い。リベラル派政党の党首を決めるために残された時間は少ないが、リベラル派を生き返らせるためには極めて有能な政治家でかつ管理者である人物が不可欠だということは誰もが理解している。

そのような候補者はいる。だが、候補者を見つけるに個人的資質だけでなくさらに重要なことを考えなくてはならない。それはこの政党がリベラルな選挙民に対して何をどのように訴えるかということだ。

今、リベラル派は表面に現れているよりも遥かに多くの問題を抱えている。「右派活動」の内部には、かつて右派の活動を終らせた政治家がまだ存在している。彼らは人材を見出すことができ

ず、反対する与党によって解散させられた。その一方で、リベラルな選挙民は左翼及び家父長主義の支持者より合理的である。新しい「右派活動」が議会で議席を獲得できるかどうかは、新しい党首が誰になるかだけでなく、予算支出の削減、年金改革のスピードと効果、競争環境の整備といった課題に、彼らがどのような答えを出すことができるかにかかっている。

※ 解説：「右派活動」(Правого дела : 英語名 Right Cause) はロシアの政党。2008年11月に右派勢力同盟、市民勢力、ロシア民主党が合同して結党された。党綱領において民主主義、法の支配、法の下での平等、自由市場等リベラル的な主義主張を掲げており、現政権支持の立場を取る。現在、議会選挙キャンペーンへ向けて党首選定中で、クドリン財務大臣、ドヴォルコビッチ大統領顧問、シュヴァロフ第一副首相などの名前が挙がっているが、4月1日には一旦党首就任を受諾したシュヴァロフ氏が断ったとの報道がなされている。

## 報告書マニア

議会選挙と大統領選挙を前にして、色々な種類の「専門家」が現れては、先を争ってコメントや解説を出して他の「専門家」より有利なポジションを確保しようと躍起になっている。最もあり得ないシナリオとその影響について書いた報告書が雨後の竹の子このように出てきて騒ぎが毎日とは言わないが毎週のように起こっている。

それらの似たような報告書に情報的な価値があるかと言うと、それは甚だ疑わしい。なぜならそのような報告書を出す目的は大衆にアピールする狙うにあるからだ。このようなことにはあまり騒がないほうがいい。いつの選挙キャンペーンでもこのような「報告書マニア」状態が起こった。しかし、自分の運命が決まる日が近づくにつれ、報告書が出て騒ぎが起こるたびに動揺して選挙後の勢力図を予想し、自分がどうやって生き残るかに頭を悩ます政治家もいるが、そのようなことには何の意味も無い。

※ 解説：今年12月の議会選挙、2011年3月の大統領選挙を前に、ロシアは「政治の季節」に入ったといわれているが、選挙を睨んだ政策プログラムやこれまでのタンデム体制のあり方を批判する報告書などが出されている。代表的なものには3月15日に公表された現代発展研究所(INROR)の『未来の発見：2012年戦略』<sup>1</sup> (“Обретение будущего. Стратегия-2012” (Discovering the future. Strategy- 2012)) や、戦略研究センター(Центра стратегических разработок(ЦСР))が3月26日に公表した『ロシアの政治的危機と発展を可能とするメカニズム』(Политический кризис в России и возможные механизмы его развития)がある。チェスナコフ氏のコメントは与党統一ロシア顧問の立場から、選挙前になるとそのような報告書が多数出されてメディアなどが騒ぎ立てる状況を「報告書マニア」と揶揄したものである。

以上

---

<sup>1</sup> ロシア関連メモ No.61 「現代発展研究所 (INSOR) : 報告書『未来の発見 : 2012年戦略』を公表 (速報) (2011年3月17日) 参照。